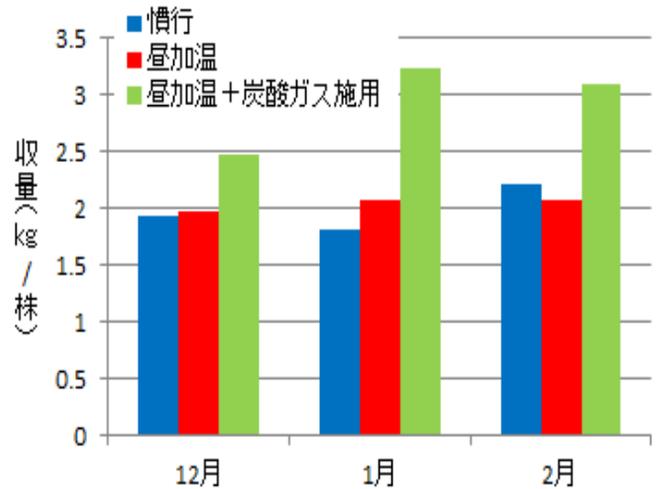


昼加温と炭酸ガス施用を併用した 促成ナスの品質向上・増収技術



プロパンガス燃烧式
の炭酸ガス施用装置



冬期の収量が大幅に増える

開発のねらい

本県の促成ナスは、他県産に比べて高値で取引される重要なブランド野菜ですが、近年、燃油価格の高騰等の影響で収益性が低下しています。このため、産地からの要望を受け、単価の高い冬期における品質向上と増収につながる技術を開発しました。

新技術の概要

- 慣行の加温栽培（夜温13℃、昼の換気温度28℃）に加え、本技術ではプロパンガス燃烧式の炭酸ガス施用装置を11月から4月の間、毎日午前6時から午後3時まで稼働させ、昼加温（ハウス内温度を2～3℃高める）と炭酸ガス施用（ハウス内の炭酸ガス濃度を1,300～1,500ppmに保つ）を行います。
- 慣行栽培に昼加温を加えるだけでも品質が向上しますが、炭酸ガス施用と併用することで樹勢が旺盛になり、果実の外観がさらに向上し、着花も促進されて冬期収量が約5割（一作を通じての収量は約2割）増加します。

活用場面

高単価の期待できる冬期の品質向上・増収により、県内生産農家の収益性が大幅に向上するとともに、「おかやま千両ナス」のブランド向上に役立ちます。